



湯殿山 大日坊瀧水寺

だいにちばうりゅうすいじ

真如海上人

○しんによかいしようにん

【拝観時間】8:00~17:00
【拝観料】500円(1名)
【駐車台数】50台
住所:山形県鶴岡市大綱字入道11
TEL:0235-54-6301
FAX:0235-54-6302
<http://dainichibou.or.jp/>



仁王門
(仁おうもん)
仁王像は鎌倉時代の
運慶作とされる。



金銅仏釈迦如来立像
(こんどうぶつしやかにんらいりゅうぞう)
(国指定重要文化財)
飛鳥時代(7世紀)

皇壇の杉(おおだんのすき)
見事な枝ぶり(旧境内)
根回り/8m
枝の長さ西南北/22m
高さ/27m

大日坊の開創と歴史

大同2年(810)七弘法大師により開創され、大綱に構える大寺院で、明治の廃仏毀釈の嵐も乗り越え、真言宗を護持した四ヶ寺の一つです。現在の大日坊は明治27年の地滑りのために、昭和11年に移転したのですが、旧地に一山を構えていた頃は間口42間幅12間(約22m)の堂々たる大伽藍でしたが、明治8年(一八七五)被災してしまします。巨大な庚申塔がある場所には旧大日坊境内の山門がありました。また、徳川家光の時代には徳川家の別当祈願寺でした。



森敦文庫
小説『月山』(芥川賞受賞)



天井画の鏡演
9つの天井画は真言密教の象徴である
曼陀羅絵図を連想させます。

三即身仏を巡る旅

鉄門海上人

○てつもんかいしようにん



湯殿山 注連寺

ちゅうれんじ

注連寺の開創と歴史

天長10年(833)に弘法大師空海により開創されたと伝えられています。大師は桜の木の下に護摩壇を築き、49日間の祈りを捧げると八大金剛童子が現れ、湯殿山のご神体に導きました。大師自ら桜の枝に「注連」を掛け、これに因んで寺号を「注連寺」とし、山号を「湯殿山」としました。

【拝観時間】8:00~17:00
(11月~4月は9:00~16:00)
【拝観料】500円(1名)
【駐車台数】50台
住所:山形県鶴岡市大綱字中台92-1
TEL:0235-54-6536
FAX:0235-54-6538
E-mail:churenji@navy.plala.or.jp

『ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン/2009年2月発行』にて下記の評価を受けました。

注連寺★★ 即身仏★★★
天井画★ 厨 口★



不動山本明寺

ほんみやうじ

本明海上人

○ほんみやうかいしようにん

本明寺の開創と歴史

文禄元年(一五九二)、心月上人により開創され、慶長17年(一六二二)まで境内山林を広め、多くの信者と弟子に恵まれていましたが、羽越争乱に巻き込まれ、荒廃の一途を辿ります。40余年の時を経て、注連寺で出家した本明海上人により、往時の繁栄を取り戻しました。

【拝観】要予約
【拝観料】お問い合わせ下さい
【駐車台数】15台
住所:山形県鶴岡市東岩本字内野388
TEL:0235-53-2269



即身仏堂
(そくしんぶつどう)
本明海上人が
祀られています。

入定塚

即身仏になるべく土を掘り、
入定した場所。その後信者により
石碑が建立されました。

出羽の古道 “三即身仏を辿る”

＊湯殿山信仰と即身仏

江戸時代初期以降、湯殿山の一世行人の中には「即身仏」なる人々が多く現れます。古くは鎌倉時代から湯殿山系の即身仏は、エジプトのように死後の人工的な処置によるミイラとは本質的に異なります。生前から修行を積み重ね、自らの罪を除くと共に、飢餓や悪病に苦しむ衆生を救う為に「身を捧げる」ことを自身の意思によって選んだ道でした。

この意味での即身仏が、一種の伝統として多く出現した山は全国でも湯殿山のほかにはないといわれます。なぜ、湯殿山の一世行人の中にだけこうした生き方、死に方、身体を残し方を選ぶ世界観が登場したのでしょうか。真言密教は、人間が大日如來の力により、生身の肉のまま仏となることのできる道と説いています。高野山で



は、弘法大師自身が奥の院に入定して即身仏を遂げたとの伝説を伝えていいます。即身仏を志した一世行人は、木喰行（もくしきぎょう）に入り、五穀断ち（ごこくぎり）米・麦・粟・豆から始め、次に十穀断ちに進み、最後はほとんど食へなくなる断食行です。行の期間は最低で1千日や2千日、4千日や5千日の例も記録されています。断食を続けた後、生きたまま土中の石室または穴に入り、錫（すず）を鳴らし仏の名を称えながら息絶えしました。それから3ヶ月後、行人の遺言に従い塚を掘り、即身仏として祀られました。

江戸時代へタイムスリップ

～古の人のように歩いて即身仏に手を合わせてみませんか～



＊湯殿山信仰と六十里越街道

湯殿山は出羽三山の象徴であり、伊勢の奥の院と称されてきました。湯殿山の信仰は東北、越後や北関東まで広がり、「西の伊勢、東の湯殿山（ゆてのこ）」といわれ、江戸時代には全盛を極め、享保18年（一七三三）に約16万人の人が六十里越街道を歩いたと記されています。湯殿山はなぜこのように全国有数の霊場になったのか。それは、日本人の信仰心の「自然崇拜」によるもので、湯殿山の二神体は熱湯が湧き出している巨岩で、岩を自然の象徴（神）として、社殿が建てられることもなく古来の姿のまま祀られています。

1週間は齋戒木浴（さいがいもくよく）し生ものを食べないの修行を積み、白装束に注連（しめ）めを付け、フタジを履き、菅笠と「サ」と金剛杵を手にして六十里越街道を歩きました。男子は15歳になると無病息災を願い、湯殿山へ詣る習わし「初詣り」が昭和初期まで行われていました。

◎車でのアクセス

	月山IC～	庄内あさひIC～
大日坊	35分	15分
注連寺	40分	15分
本明寺	50分	3分

◎バスでのアクセス

	JR鶴岡駅～(田妻俣・湯殿山行き)
大日坊	大網バス停 徒歩 10分
注連寺	大網バス停 徒歩 25分
本明寺	ぼんぼバス停 徒歩 15分

＊ビューポイント：十王峠

十王峠は、俗界と聖界の境（結界）とされました。十王とは龍魔大王のこと。天気の良い時は月山、鳥海山、庄内平野と、遠くは日本海に浮かぶ飛鳥が見えるかも...



●資料及び六十里越街道マップ等については—

あさひむら観光協会

【住所】〒997-0403 山形県鶴岡市越中山字名平3-1
【TEL】0235-53-3411 【FAX】0235-53-2400
【E-mail】argodia2@asahi-kankou.jp 【URL】http://www.asahi-kankou.jp/kankou/

本明海上人（本明海宗和上人）
元和9年（一六三三）武士として生まれ、俗名を富樫吉兵衛といひます。藩主酒井忠義公の病氣全快祈願のため、湯殿山に詣でたことが出家のきっかけでした。湯殿山に於いて靈感を受けた為、藩主の怒りに触れ、家族は追放、食糧も没収となりました。39歳で注連寺で剃髪し、その後藩主の病氣全快祈願をつつげ、その甲斐あって全快した藩主は、吉兵衛の真意を悟り家族を召抱え、本明寺の再興にも大いに賛助するに至ります。一六七三年に即身仏になるべく即身仏堂を建立し、10年間の修行を経て、一八八二年、61歳で入定し、3年3ヵ月後に信者により即身仏となったことが確かめられました。庄内の少ない姿で残されていますが、それは上人の徹底した木食行の賜物であるといわれています。



鉄門海上人（恵眼院鉄門海上人）
明和5年（一七六八）鶴岡市（旧西田川郡米村）に生まれ、俗名を砂田鉄といひ、井戸掘り、俗流の仕事をしていました。25歳で出家し、69世寛能和尚の弟子となり、空海の海と鉄の字を合わせ鉄門海とします。その後、湯殿山仙人沢にて幾多の難行苦行に耐え、一心に仏の弟子として、空海の化身のごとく、加茂坂の階道開削などの公益事業を数多く成し遂げました。また、江戸に出た時、流行していた眼病を治めんとし、自分の左目を抉り取り、鶴田川の竜神に捧げたというエピソードも残っています。鉄門海上人は弘法大師が62歳で即身仏になられたこと因んで、一八二九年に3千日の修行の末、見事に即身仏になられました。愛情豊かな上人であったそうです。



真如海上人（代受香隆真如海上人）
貞享4年（一六八七）旧朝日村越中山に生まれ、進藤仁左衛門という農家の長男でしたが、家業をよく手伝っていました。ある日山から材木を運搬中に3人の子供に頼まれ、木食行に誘われ、一人の子供が乗せたところ、一人の子供がその下敷きになり死んでしまいました。その子の弟と、幼少より仏教に親しんでいた事もあり、迷うことなく大日坊に出家し一世行人となったのでした。20代より即身仏を志し70余年の長い間、難行苦行を積み重ね天明3年（一七八三）折からの大飢饉に苦しむ衆生を哀れみ仙人沢に籠って、木食行を積み96歳で入定しました。人心を魅了する静かな心の持ち主だったようです。

